

Ⅱ．3種のシラバスの概要

福永 由佳

一覧を作成するにあたり、主たる分析対象としたものは、日本国内における中国帰国者向けの日本語教育の内容に関する資料、移民等の受入れの歴史が長いアメリカ及びオランダにおける自国語教育の内容に関する資料である。以下、それぞれの資料の背景及び概要について述べる。

1. 日本

【資料の背景】

1972年の日中国交正常化以降、中国帰国者（以下、帰国者）やその家族の日本への永住帰国が進み、現在、その数は2万人を超えている。帰国者とその家族の永住帰国に伴い、生活で遭遇する場面において必要となる知識と日本語を習得することを目指し、中国帰国者定着促進センター（1984年開所、以下、所沢センター）をはじめとする、全国の研修機関において日本語教育プログラムが実施されている。その中でも、来日直後の集中研修が行われる所沢センターは中心的な機能を有し、研修だけではなく、帰国者の学習ニーズや接触場面に関する基礎的な調査研究を実施し、これらの調査をもとにした独自のシラバスや教材の開発と改善に取り組んでいる。

【資料の概要】

本書で取り上げる日本国内の資料は、所沢センターが開発した「目標構造表」である。

「目標構造表」は、それ以前に開発された「指導項目表」とは異なり、表現・語彙が詳細に明示されていない。図1に示すように、大・中・小目標は学習者に共通しているが、小目標の下位分類レベルでは学習者タイプごとに異なる達成目標設定されている。達成目標は達成できたか否かがはっきり判断できるように、「～できる」「～を身に付ける」「知る」といった具体的な行動指標として記述されている。

- ・ **大目標** (自信と意欲, 知識・基礎技能) **1 項目**
 日本の生活, 日本人とのコミュニケーションに対する自信と意欲,
 それを裏打ちするような基礎技能・基礎知識の獲得を目指す

- ・ **中目標** (基礎的な生活行動, 背景知識, 定着地へ行ってからのコミュニケーション) **3 項目**
 - 中目標 1. 身近な生活行動場面の基礎知識・基礎技能
 - 中目標 2. 将来の生活に有用な基礎知識・基礎技能
 - 中目標 3. 身近な生活や将来の生活の基礎となるコミュニケーションの力

- ・ **小目標** (目標の項目は同じでも, その目標内容がレベルによって異なる)
 - ・ 中目標 1 の下位分類として **10 項目**
 交通, 消費生活, センター, 住居・近隣対応, 職場・自分学校,
 健康, 通信, 社会福祉・手続き, 子弟教育, 生活技能
 - ・ 中目標 2 の下位分類として **3 項目**
 一般教養, 異文化, 日語自学
 - ・ 中目標 3 の下位分類として **2 項目**
 話題コミュニケーション, 日語知識

- ・ **達成目標**
 各小目標に対して複数の達成目標が設定されている。
 あるプログラムが実施された結果として達成されるよう目指される
 目標レベル。

[図 1 : 大目標, 中目標, 小目標]

(黒瀬 2008 : p. 38)

2. アメリカ

【資料の背景】

アメリカでは移民等に対する英語教育は成人教育の一環として位置付けられているが, 他の成人教育プログラムに比べ, ニーズが高く, 成人教育全体の約 43% を占めるまでになっている。また, 1980 年代からの教育改革において推進された教育内容の標準化の流れを受け, 成人教育としての英語教育分野 (以下, 成人 ESL と略す) においても教育内容の標準化が進行している。その結果, 教育を専管する州レベルの基準や州レベルの基準のマス

タープランとしての専門機関による基準など、目的や開発主体の異なる、様々な基準が存在している。

【資料の概要】

本書で取り上げるアメリカ資料は、成人教育分野における代表的な評価専門機関である包括的成人学習者評価システム (Comprehensive Adult Student Assessment System, 略称 CASAS) が作成したコンピタンシー (Competency) の一覧である。コンピタンシーとは、家庭、地域社会、職場の場面で成人に求められるスキルや知識を意味し、フィールドリサーチ等の調査並びに成人教育の専門家等による検討をもとに、現在9領域約300項目が整備され、現在も定期的に見直しが行われている (表1)。

【表1：コンピタンシーの9領域と主な分野】

0. <u>基礎的なコミュニケーション</u> 個人間コミュニケーション, 個人情報に関するコミュニケーション	1. <u>消費者経済</u> 度量衡, 金銭管理, サービス・商品の購入, 消費者保護	2. <u>地域社会の資源</u> 電話, 交通, 郵便, 時間・天候, 余暇, 文化
3. <u>健康</u> 医療サービス, 健康維持, 薬	4. <u>雇用</u> 求職, 労働条件, 労働団体, 組織・システム, 職業訓練, テクノロジー, 職場のコミュニケーション	5. <u>政府と法律</u> 権利と義務, 選挙, 法的アドバイス, 税金, 環境, 経済, 歴史と地理
6. <u>計算</u> 数字, 整数, 小数, 分数, 方程式, グラフ, 統計, 度量衡, 計算, 暗算	7. <u>学ぶことを学ぶ</u> 自己管理, 目標設定, 時間管理, 学習能力, 思考力, 問題解決力	8. <u>自立生活のスキル</u> セルフケア, ホームケア, 目標達成

(CASAS (2003) をもとに作成)

次ページに示すように、領域、分野、分野を構成する具体的な項目は全て「～を使用する」「～を理解する」「～を解釈する」といった行動指標で記述されている。

成人 ESL 学習者向けを含む、CASAS が全米の成人教育機関に提供するテスト等はこのコンピタンシーリストを基盤に開発され、これらのテストは全米各地の教育機関で実施されている。さらに CASAS のコンピタンシー準拠の英語教材も一般の出版社から出版されており、CASAS のコンピタンシーが成人 ESL 分野における浸透度が伺える。

健康の領域（3.）の構造

- 3.1 医療制度へのアクセス方法と利用方法を理解する
 - 3.1.1 身体の一部を特定するなど、病気の症状を説明し、医師の指示を解釈する
 - 3.1.2 医療機関や歯医者予約したり、予約を守るために必要な情報を特定する
 - 3.1.3 （略）
- 3.2 医療や歯科用の記入用紙と関連する情報を理解する
 - 3.2.1 病歴用の記入用紙に記入する
 - 3.2.2 予防接種の要件を解釈する
 - 3.2.3 ～3.2.4 （略）
- 3.3 薬の選択と使用法を理解する
 - 3.3.1 必要な薬を特定し、使用する
 - 3.3.2 薬のラベルを解釈する
 - 3.3.3 （略）
- 3.4 基本的な健康と安全の手順を理解する
 - 3.4.1 製品ラベルの指示と安全のための警告を解釈する
 - 3.4.2 事故や怪我を防ぐ安全対策を特定する
 - 3.4.3 ～3.4.5 （略）
- 3.5 健康維持の基本原則を理解する
 - 3.5.1 食品ラベルに掲載されている栄養と関連情報を解釈する
 - 3.5.2 バランスの取れた食事を選択する
 - 3.5.3 ～ 3.5.9 （略）

（CASAS(2003)をもとに作成）

3. オランダ

【資料の背景】

2006年以降、オランダに住むためには、一定のオランダ語能力及びオランダ社会に関する知識を証明することが求められている。その証明のために受験する市民統合テストは、2007年から実施されており、1998年の新移民統合法以前からオランダに居住していた移民（旧移民）とそれ以降の移民（新移民）の両方を対象としている。永住権申請は、この試験の合格が要件とされるが、仮入国許可を得ている人（海外版市民統合テストの合格者）は入国後3年半以内、それ以外は入国後5年以内に合格しなければならない。

【資料の概要】

本書で取り上げたオランダ資料は市民統合テスト（Inburgerings Examen（Civic

integration examination)) 出題のためのシラバス「統合の最終達成目標」である「オランダ語の達成目標 (Eindtermen Nederlandse Taal)」と「オランダ社会に関する知識の達成目標 (Eindtermen Kennis van de Nederlandse Samenleving)」である。

表 2 にあるように、オランダ語の試験では、日常生活や仕事の場において、経験する頻度の高い領域と場面 (CP) が取り上げられ、さらに各場面に必要不可欠な行動 (CH) が 1～3 つ具体的に設定されている。

[表 2: 必要不可欠な生活場面におけるオランダ語の領域・場面]

領域・場面数	場 面
<u>市民生活</u> 全 10 場面	市役所等 (個人情報変更の届け出, 書類申請や各種手続き, 警察への届け出), 支払い (銀行), 保険, 住居 (住居を借りる, 公共料金・電話, ゴミ・環境), 教育, 隣人関係
<u>子育て<育児, 健康, 教育></u> 全 11 場面	乳幼児健診センター, プレイルーム, 小学校へ, 小学校との連絡, 安全, 読書と遊び, 自由時間, 中等教育へ, 将来についての話, 家庭医, 歯科医
<u>就労分野 (一般)</u> 全 9 場面	職探し (仕事を探す, 求人応募, 労働契約についての会話), 職場で (労働条件についての会話, 人事考課面談, 病欠及び復帰の連絡, 仕事の打ち合わせ/チームミーティング, 同僚との話し合い, 同僚との会話)
<u>就労分野 (職種別)</u> 3 種, 各 5 場面	<u>技術系</u> (顧客とのコンタクト, 報告する, 労働安全衛生規則への対処, 苦情への対応, 作業指示の理解), <u>商業及びサービス業系</u> (顧客とのコンタクト, 報告する, 労働安全衛生規則への対処, 苦情への対応, 作業指示の理解), <u>保健医療及び福祉系</u> (利用者との接触, 報告する, 労働安全衛生規則への対処, 苦情への対応, 作業指示の理解)

(金田 2008 : p. 20)

「オランダ社会に関する知識」に関する試験では、「必要不可欠な生活場面」として、以下の 4 つの場面と、8 つのテーマが設定されている。

「必要不可欠な生活場面」: 4 区分

- ・ 労働市場で適切に対応する
- ・ 自分の生活環境で適切に対応する
- ・ 機関や政府との連絡 (関係) で適切に対応する
- ・ オランダ国民として適切に対応する

「8 つのテーマ」

- ・ 仕事と収入
- ・ マナー・価値観や規範
- ・ 住まい
- ・ 健康と保険医療
- ・ 歴史と地理
- ・ 各種機関

- ・ 国家組織と法治国家
- ・ 教育と育児

各テーマには不可欠な行動，不可欠な知識，知識の具体例として「成功行動の指標」が示されている。（表3参照）。

【表3:「オランダ社会に関する知識」の例】

テーマ4. 健康と保健医療		
オランダ社会に定着しようとする外国人は，オランダの保健医療制度の規則に従い，保健医療を利用することができる。		
不可欠な行動	不可欠な知識	成功行動の指標
4.1 自分の健康状態と生活様式を考慮して賢い選択をする	4.1.1 運動と健康的な食品が，健康に大きく貢献することを知っている。	健康を維持するためスポーツをし，体を動かし，健康的な食生活をする。
4.2 一次保健医療（家庭医）を利用する	4.2.1 家庭医の見つけ方を知っている。	家庭医の選択に関して自分の保険会社に相談する。
		家庭医のもとに登録を申し込む。
	患者の自己紹介面談のために予約を入れる。	
	4.2.2 どういった症状で家庭医を訪ねることができるか，あるいは訪ねなければならないかを知っている。	家庭医の任務と責務の範疇にある愁訴に関して予約を入れる。
	4.2.3 オランダの医師の一般的な指示方法を知っている。	回復促進に役立つ行動をする。 薬の処方控えめに行われることを理解する。
4.3 二次保健医療を利用する	4.3.1 家庭医が専門医療に紹介してくれることを知っている。	医療的問題がある場合には，まず家庭医のところへ行く。
		専門医を訪ねるときには紹介状を携行する。
		病院の規則や慣習を遵守する。
		4.3.2 患者がいつ自宅介護サービスを求める権利を持っているかを知っている。
	4.3.3 家庭医に，社会心理方面の介護サービスや社会福祉事業団体に紹介してもらえらることを知っている。	心理的問題がある場合には，まず家庭医に連絡を取る。

（金田 2008 : p. 21）

参考文献

- 金田智子 (2008) 「オランダにおける移民等に対する自国語教育の内容について」『平成 19 年度成果普及セミナー報告書 生活者にとって必要な「ことば」を考える』国立国語研究所日本語教育基盤情報センター
- 金田智子・福永由佳・黒瀬桂子・武田聡子 (2008) 「生涯発達の視点から見るコミュニケーション能力ー『生活のための日本語』探求のためにー」『日本語教育世界大会 2008 予稿集』279-282.
- 黒瀬桂子 (2008) 「中国帰国者に対する日本語教育の変遷」『平成 19 年度成果普及セミナー報告書 生活者にとって必要な「ことば」を考える』国立国語研究所日本語教育基盤情報センター
- 中国帰国者定着促進センター (1995) 『平成 4・5・6 年 文化庁日本語教育研究委嘱中国帰国者に対する日本語教育のカリキュラム開発に関する調査研究』
- 福永由佳 (2008) 「米国における、「生活者」のための言語教育ー成人基礎教育・識字教育の観点からー」『第 17 回小出記念日本語教育研究会予稿集』
- 福永由佳 (2008) 「アメリカにおける移民等に対する自国語教育の内容について」『平成 19 年度成果普及セミナー報告書 生活者にとって必要な「ことば」を考える』国立国語研究所日本語教育基盤情報センター
- 福永由佳・金田智子 (2008) 「定住型外国人対象の自国語能力テストの社会的役割ーオランダ、アメリカの事例からー」『日本言語文化研究会論集』第 4 号, 国際交流基金日本語国際センター・国立国語研究所・政策研究大学院大学
- Bureau ICE・Cito (2006) *Eindtermen kennis van de Nederlandse samenleving.*
- Bureau ICE・Cito・ITTA (2006) *Eindtermen Nederlandse taal.*
- CASAS (2003) *CASAS Competencies: Essential life skills for youth and adult.*